

団体・組織の概要

太枠内、必須事項。その他は、該当する項目を記載してください。

団体/会社名	特定非営利活動法人 NPOサプライズ		
代表者	飯倉清太	担当者	飯倉清太
所在地	〒 410-3213 静岡県伊豆市青羽根 17 - 2 TEL:0558 - 87 - 1832 FAX:0558 - 87 - 1832 E-mail: k i y o @ k i y o . n a m e		
設立の経緯 /沿革	2008年10月 NPO 法人認定(静岡) 2009年8月 静岡県観光プレゼン商品企画優勝 2010年9月 知恵組フェスタ 産学官連携でのイベント		
団体の目的 /事業概要	伊豆地域および静岡県東部地域で暮らす人々に対して、文化・健康的でなおかつ地球環境にやさしい暮らしを送れるよう、また、地域同士の連携や協力を通じて 明るい未来像を描くことができるように支援する事業を行い、伊豆地域および静岡県東部地域の活力ある社会の実現に寄与することを目的とする事から始まる。 現在静岡県を中心として清掃活動17支部、ボランツリズム等環境美化を中心とした街づくり促進を図っている		
活動・事業実績 (企業の場合は 環境に関する 実績を記入)	2009年2月 清水町影奉仕始動 長岡アダプトプログラム開始 2009年3月 富士影奉仕始動 2009年4月 アースデイ伊豆と連携。西伊豆13キロ徒歩清掃制覇 2009年5月 函南町清掃イベント「MIKAN」実施 ビブス登場 2009年7月 エコバック型ビブス NPO サプライズバージョン完成 2009年9月 9,19千葉と合同清掃、三島田方法人会青年部清掃連携スタート、プレゼン優勝 2009年10月 NPO サプライズ設立1年、オーストラリア NOOSA 清掃開始 2009年11月 ボランツリズム開始 2010年9月 明治大学、慶応大学、青山学院、千葉大とボランツリズムコラボレーション http://kage.i-ra.jp/c68169.html 2011年1月 ちいさな親切運動表彰授与		
ホームページ	http://kage.i-ra.jp/		
設立年月	2008年 10月	* 認証年月日(法人団体のみ) 2008年 10月 18日	
資本金/基本財産 (企業・財団)	円	活動事業費/ 売上高(H20)	100万円
組 織	スタッフ/職員数 13 名 (内 専従 1 名)	個人会員 10名 法人会員 名 その他会員(賛助会員等) 80名	

政策のテーマ

「ボランツーリズム」

政策の分野

- ・ 環境型社会の構築 自然環境の保全
- ・ 持続可能な地域づくり 環境パートナーシップ

政策の手段

- ・ 制度整備及び改正 予算・資金措置 施設等整備 監視・測定
- ・ 環境教育・ESDの推進 組織・活動 人材育成・交流 地域活性化と雇用 国民の参加促進

団体名：NPOサプライズ

担当者名：飯倉清太

キーワード	環境整備	人材育成交流	持続可能な地域	協働推進事業	人的交流
-------	------	--------	---------	--------	------

政策の目的

環境整備など地方では高齢化、少子化、過疎化により労働力の「不足」が起きている
この問題をあらゆる角度から解消する為の政策

背景および現状の問題点

近年20代 30代若者の旅離れが進んでいる、実数では300万人の減少。一方地方では高齢化、少子化、過疎化などさまざまな問題から地域環境その他を維持する事が困難になっている。例として23年の豪雪による高齢者の死亡は100人を越えた近年地域コミュニティが崩壊し雪かき等の人手が不足した結果によるものである。同じくごみの不法投棄なども山深い場所では労働力が「不足している」のである。これに対して3時間の労働と宿泊を「交換」する事により都市部からの若者旅行者が地域を助けるシステム、これがボランツーリズムである

政策の概要

「ボランツーリズム」という新しいツーリズムを使い持続可能な地域社会・組織の構築をすると共に若者に対しては環境教育、地域との接点を構築。また地域においては若者の労働力の確保と共に環境に対する知恵や方法をレクチャーする事で持続可能な自然保全システムを構築。この事から自然再生と復元や森林、緑地、海岸、里地、里山、湿地、身近な自然の管理と利用を促進する活動につながる。

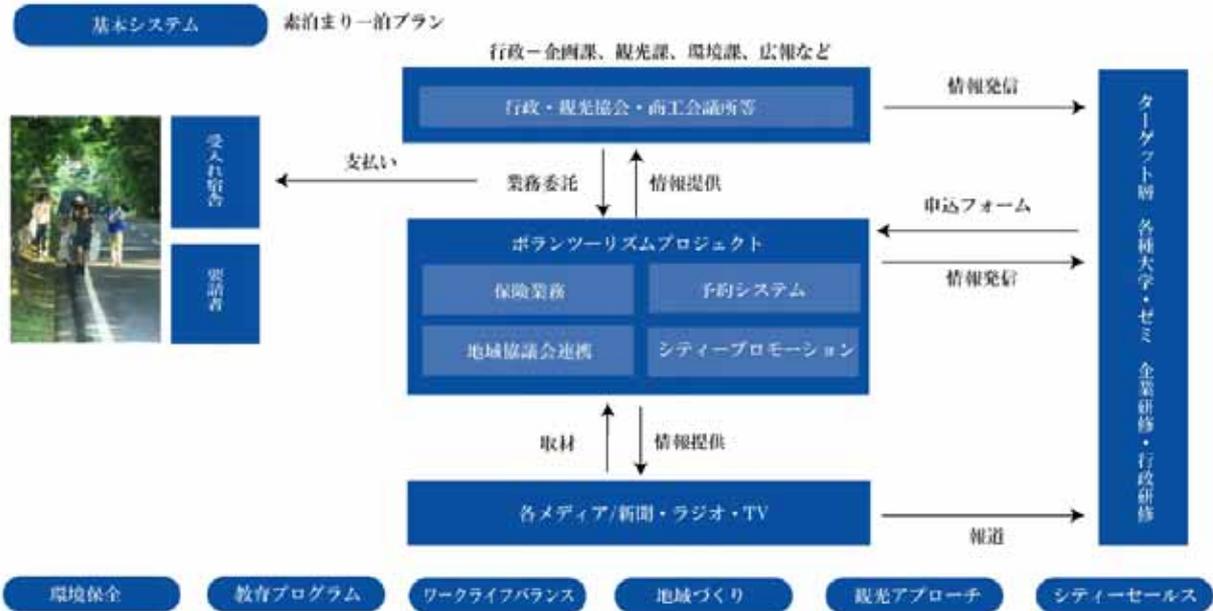
また現在痴呆症やうつ病対策に清掃や整頓などがあげられている部分もありこれらの現代病緩和できる可能性がある。今後さまざまな角度から検証をし環境を中心としその他に汎用できるシステムを構築しオープンソース配布

政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

ボランティアリズムビジョン（シティープロモーション）

世界的に動き出している労働と観光のマッチング、双方の視点からこれまでとは異なるアプローチを提案するものである。参加者にはある一定の自己実現を、受け入れ地域側には経済効果をもたらす。「環境保全」「町づくり」「人づくり」そして「観光」へと結びつく短中長期に渡るシティープロモーションである。

地域の課題
高齢化、定住化、過疎化、不法投棄など
若者の課題
離れ、核家族、ワークライフバランス、就職難



政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

- 特定非営利活動法人 NPOサブライズ
- 特定非営利活動法人 atamista
- 株式会社ワーキングヘッズアドバンス
- 明治大学社会イノベーションデザイン研究所
- 伊豆市
- 伊豆市インバウンド推進協議会

政策の実施により期待される効果（具体的にお書きください）

ボランティアを実施することにより、
環境に対する意識の向上
地域社会とのコミュニケーション能力の向上
持続可能な社会の構築
森林保全
自然再生保全
若者の観光への興味促進
環境問題の解決に向けた市民、企業、行政の協働促進
環境NGO NPOへの支援（人的）
環境教育、環境学習、持続可能な開発のための教育
環境アドバイザー 環境ボランティア創出
少子化 高齢化への対策

その他・特記事項

現在まで11回のボランティアを実施。環境に対する興味などの向上が見られると同時に現在日本で起きている過疎化、少子化にたいするアプローチが可能なデータが見られる。清掃だけに特化したものではなく雪おろし、農作物の収穫などさまざまな角度での汎用性がある。同時に地域の「シティープロモーション」としての活用が考えられる。2010年1月落合楼村上でのボランティアではテレビ・ラジオ・新聞等でパブリシティも得られた。全国に対しての汎用性もある。